

事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(769)8355
担当部課名	保健福祉部	障害福祉課		
事務事業名	社会福祉事業団経費		事業コード	11310

1 総合計画における位置づけ

政策名	第1章	安心して生活できる福祉社会をつくります	事業開始年度
基本施策名	第3節	障害者の自立支援と社会参加	7年度
施策名	第1施策	自立した生活を実現するための環境づくり	

2 実施根拠及び関連法令等

相模原市障害者支援センター条例

3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象(誰、何)	
就労が困難な知的障害者及び身体障害者の社会的、経済的自立の促進や障害者地域作業所等の支援を行う。		市内の知的・身体障害者	
		対象数	14,427人
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
市が松が丘園の運営を「相模原市社会福祉事業団」に委託し、下記の事業を実施し、障害者の社会的、経済的自立を促進する。 <在宅福祉支援部門> 障害者施設支援事業 障害者就労援助事業 障害者自立生活支援事業 障害者余暇活動支援事業 障害者一時ケア事業 <施設支援部門> 第一松が丘園(知的障害者通所授産施設) 第二松が丘園(身体障害者通所授産施設) 平成13年度委託料 166,259,566円		障害者が住み慣れた地域で自らの意思により生活ができるよう、各々の状況に適したサービスを充実するとともに、就労や余暇活動の支援を行うなど、障害者の社会参加に向けた取り組みに努める。	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名なし	
		計画年次	年度～年度

4 評価指標

指標名	予算執行率	定員充足率
指標式	決算額 ÷ 予算額 × 100	通所者数 ÷ 定員 × 100
指標設定の意図	計画した予算額から実際の決算額を数値化し予算執行率を計る。	通所定員に対する通所者数の割合を示し、定員の充足率を計る。

5 目標と実績

〔金額単位：千円〕

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標	92	89	a 89	b 100	100	
指標	66	71	c 80	d 100	100	
指標			e	f		
事業費	決算(予算)額	158,070	166,161	166,260	166,260	257,549
	人員・時間数	1	1	1	1	1
	人件費	1,504	1,504	1,504	1,504	1,504
	その他経費	0	0	0	0	0
	合計	159,574	167,665	167,764	167,764	259,053
特定財源	0	0	0	0	0	

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか													
評価 A ▼	A : 達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 84.5%											
	B : 一部達成していない(100%> 80%)												
	C : 達成していない (80%>)												
a	89.0	b	100.0	$\times 100 = 89.0\%$	c	80.0	d	100.0	$\times 100 = 80.0\%$	e		f	$\times 100 =$
理由 :	在宅福祉支援部門については適正に執行されている。施設支援部門については有効に機能しているが定員充足に努める必要がある。												

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か			
評価 A ▼	A : 適応している	理由 :	在宅福祉支援と施設支援を中心に実施しており、障害者の自立に有効である。
	B : 一部適応していない		
	C : 適応していない		

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 B ▼	A : 妥当である	理由 :	事業団固有職員の給与体系が市と同じため人件費水準が高い。
	B : 一部妥当でない		
	C : 妥当でない		

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か			
評価 B ▼	A : 代替の可能性ない	理由 :	障害者の社会参加、自立支援の場の確保という観点から多様な施設を有することは必要である。
	B : 代替の可能性低い		
	C : 代替の可能性高い		

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 B ▼	A : 満足できる	理由 :	第一・第二松が丘園ともに、定員に満たない状況がある。
	B : 一部満足できない		
	C : 満足できない		

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 A ▼	A : 有効である	理由 :	在宅福祉支援と施設支援を中心に実施しており、障害者の自立に有効である。
	B : 一部有効である		
	C : 有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	成果向上の余地	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<p>説明 :</p> 第一・第二松が丘園ともに、常時定員を満たすよう努力する余地がある。
	コスト改善余地	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<p>説明 :</p> 常勤職員と非常勤職員との業務分担を再考するなかで、今後更なるコストの改善を図る必要がある。

7 総合評価

評価 A ▼	他自治体の類似事業との比較	横須賀市社会福祉事業団 第1種社会福祉事業 1. 知的障害者授産通所施設 定員60名 2. 知的障害者更生通所施設 定員30名 第2種社会福祉事業 1. 老人福祉センター(A型) 2. 老人デイサービスセンター(B型) 3. 老人介護支援センター その他 居宅介護支援事業 障害者就労援助事業 障害児者デイサービス事業	予算額(平成13年度) 612,234千円
		<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 完了	<p>説明</p> 障害者も自立した生活を営むためには、精神的にも技術的にも支援する地域に密着した組織が必要であり、公的に率先して行う必要がある。ただし、今後支援費制度への制度改革の中で、民間福祉団体との差別化を図り、利用者には選ばれる組織として事業の見直しを図る必要もある。

8 二次評価における変更点

--